

ガザの対立

2012年3月17日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

1979年にイスラエルはエジプトと和平協定を結びました。イスラエルはシナイ砂漠の全てをその広大な土地の塊、天然資源、およびイスラエル南部国境に沿った戦略的緩衝地帯と共に手放し、引き換えに、いかなるテロや軍事的攻撃も抑えるという約束を得ました。2005年には、イスラエルはガザから全ての国民(約9,000人)を撤退させました。

2011年2月18日エジプトの大統領ホスニ・ムバラクが辞任しました。革命の結果として新政府であるムスリム同胞団政権は、その和平条約を履行するつもりはないと公言しています。その時より、エジプトからガザに流れ込む武器と、ガザからシナイへ入ってくるテロリストの数が増加しています。

2011年8月、ガザからイスラム聖戦主義者「ポピュラーコミッティー(訳注:人民委員会)」による計画テロ攻撃が、イスラエルにおいて行なわれるという防衛上の警告があり、彼らはそれを押さえ込むつもりでいました。結局のところそれは異なっており、テロリストたちはガザから出て行きシナイ半島を下り、エイラートへと続く国道12号線の近くからイスラエルの国境を越え、8人のイスラエル人を殺害しました。

今回イスラエルは次の攻撃には反撃すべく備えていました。新しく同様の攻撃があるとの警告を受け、イスラエル空軍は、同国に対し攻撃を計画中であった「人民委員会」のリーダー、ゾハイル・アルカイシの位置を突き止め、殺しました。イスラム聖戦主義者らは大量のミサイルで報復攻撃してきましたが、イスラエルには準備ができていました。

今週の対立における各種集計です:

- ・100万人のイスラエル人が防空壕に宿泊。
- ・304発のロケットがガザからイスラエルに向けて発射。
- ・その内72発がイスラエルの人口集中地を照準に捕えることに成功。
- ・それらの内56発がアイアンドーム防衛システムにより迎撃。
- ・16発が侵入し、イスラエルの人口集中地に命中。
- ・8人のイスラエル人が負傷。
- ・ガザにある27の攻撃目標をイスラエル空軍が攻撃。
- ・ガザの22人のテロリストが死亡。
- ・4人のガザ一般人が死亡。

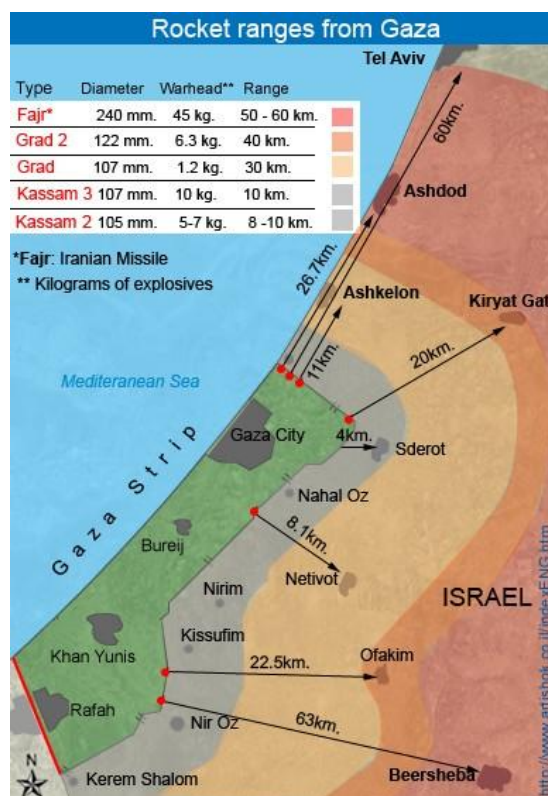
アイアンドーム

アイアンドーム防衛システムとは、レーダーユニットを駆使したイスラエルの発明によるもので、それは数秒のうちに、向かってくるロケットを察知し、弾道を計算、人口集中地に向かっている場合は迎撃ミサイル発射装置にそのデータを転送、ミサイルを発射し空中で撃ち落とすようにします。

今回の対立においては、アイアンドームにより 304 発のロケットのうち一般市民の街を的にしていた 72 発全てを特定し、その内 56 発を迎撃。78%という非常に高い成功率を達成しました。そのレーダーシステムはエルタ社により、ミサイル発射装置はラファエル社により開発されたものです

問題点の一つは、お金です。アイアンドームミサイルを 1 回発射するごとに、5 万ドル以上の費用がかかります。現在イスラエル軍にはアイアンドーム発射台が 3 台しかありません(ベエルシェバ、アシュケロン、アシュドットにそれぞれ 1 台ずつ)。周辺地域をカバー

するためには 9 台が必要です。ミサイル射程距離については添付の地図をご覧ください。



ガザからのロケット射程距離 ↑

「SWIFT」はスウィフトに(素早く)

オバマ大統領は今週、イランへの国際銀行送金のための金融機関識別コード(訳注: SWIFTコード)の企業を閉め出すことにより、強力な経済制裁を行なうことを発表。イスラエルのニュースソースは、この制裁は、ネタニヤフ首相が「SWIFTは素早く!(訳注: 英語だと「SWIFT, swiftly!」となる)」と語ったそのネタニヤフ首相との会見を受けてのことと思われる、と伝えています。

(訳注: * 金融機関識別コード=SWIFTコードの略、また swift とは英語で「素早い」の意)

再臨の戦い

終わりの時の中心的なイベントがイエシュア(イエス)の再臨です。そのイベントは実際に起こるもので、書かれている通りです。再臨について聖書の中で最も明確に語られている2つの箇所が、黙示録 19 章とゼカリヤ 14 章です。黙示録 19 章は天的な見方を提示しているのに対し、ゼカリヤ 14 章

は、この世的な見方を提示しています。

黙示録 19 章 11 節～15 節は、天が開け、イエシュアが天の軍勢を率いて、地上の戦いの中に降りて来る様子が描かれています。19 節では、イエシュアが地上で集まってきた国々の軍の連合部隊を壊滅させるために来られたと述べています。しかしそこには、地上のどこに集まってくるのかは語られていません。黙示録にその場所が明示されていない理由は、ゼカリヤですでに記されているからです。

ゼカリヤ14章2節—「わたしは、すべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。」それらの国々が攻撃するときイエシュアが前に出て彼らと戦い、彼らを打ち破られます。そして彼の足はオリーブ山の上に立ちます。**ゼカリヤ14章3～4節**—「主が出て来られる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。」

イエシュアが戻って来られるためには、イエシュアが予言したように(**ルカ21章24節**)、エルサレムは再占領されていなければなりません。またイスラエルにおいて信仰のリバイバルがあり(**ローマ 11 章 26 節、ゼカリヤ 12 章 10 節**)、エルサレムの人々はイエシュアに帰ってきていただけるよう懇願します(**マタイ 23 章 39 節**)。イスラエルに対する国際的な攻撃が起こるためには、国々を統一する世界的な組織(国連など)と、国々に対し「世界地図からイスラエルを消してしまえ」と号令するような世界的な宗教(イスラム教過激主義など)が必要です。

国々の軍隊はエルサレムを攻撃することの大義名分を信じるでしょうが、その攻撃は、天においてはイエシュア本人に対する攻撃だと見なされます。(黙示録 19 章 19 節—「また私は、獣と地上の王たちとその軍勢が集まり、馬に乗った方とその軍勢と戦いを交えるのを見た。」)この最後の戦いを構成するための政治的、経済的、軍事的な要素は、もう整っています。その戦いの序章はもう始まっているのです。

イエシュアは、彼らがどのような宗教的、あるいは民族的背景を持っていたとしても、エルサレムを攻撃するものに対し戦います。すべての個人としての人も、すべての国家の団体も、すべての宗教団体も、どちら側につくかを、決めなければなりません。それについては、中立と言う選択はありません。このエルサレムに関する問題は、「背きの石」(**ゼカリヤ 12 章 3 節**)、主の手にされている「重りなわ」(**アモス 7 章 7 節**)となり、それにより国々を裁かれるのです。

イエシュアの再臨とエルサレムを舞台に繰り広げられる戦いは、本当は密接に繋がっているのです。